

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	OTT 絵具 紫
会社名	株式会社成和陶材
住所	福岡県古賀市今の庄 2 丁目 14 番 14 号
電話番号/FAX	092-944-0707
メールアドレス	info@seiwa-touzai.com
推奨用途	陶磁器

2. 危険有害性の要約

危険分類	分類基準に該当しない	
物理化学的危険性	不燃性	
健康に対する有害性	生殖細胞変異原生 発がん性 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) その他有害性	区分 2 区分 1A 区分 1(呼吸器, 免疫, 腎臓) 区分に該当しない
GHS 分類	区分外	

ラベル要素



注意喚起語	危険
危険有害性情報	遺伝性疾患のおそれの疑い 発がんのおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、免疫系、腎臓の障害

予防策

- ・ 使用前に SDS 記載の全ての安全注意を熟読し、理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 必要に応じて保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ 環境への放出をさけること

対応

- ・ 皮膚に付着した場合、水と石鹸で洗うこと
- ・ 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は石の診断、手当を受けること。
- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。
- ・ 眼に刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受けること。
- ・ 飲み込んだ場合、無理に吐かせず、直ちに医師の診断、手当を受けること。
- ・ 漏出物は回収すること。

保管

- ・ 冷暗所に密封して保管する。

廃棄

- ・ 微量の場合は新聞紙などで拭き取り一般の家庭用ゴミに準じて出せる。
- ・ 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分

混合物

危険有害成分

複合酸化物質が含まれていますが、単一の酸化物表を採用しています。

化学名又は一般名

名前		濃度(%)	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
珪酸塩		30～50	—	—	—
界面活性剤		0～15	—	—	—
顔料	カドミウム及びその化合物	1～5	9-9	—	—
	ジルコニウム化合物		9-13		
	セレン及びその化合物		9-16		
	(結晶質シリカを含む)		2-578		
	クロム及びその化合物	1～4	9-11	—	—
	すず及びその化合物		9-15		
	(酸化カルシウムを含む)		2-620		
	コバルト及びその化合物	0.5～1.5	9-12	—	14808-60-7
結晶質シリカ		0～1.0	2-578	—	7631-86-9
水		20～50	—	—	7732-18-5

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）：第一種指定化学物質 ※…特定第一種指定化学物質

成分	管理番号	公示番号	濃度
コバルト及びその化合物	156	1-267	Co として 0.4%
セレン及びその化合物	277	277	Se として 0.04%
カドミウム及びその化合物 ※	99	99	Cd として 0.04%

化学式

CaO・SnO₂・SiO₂:Cr₂O₃-Cd(S,Se)inZrSiO₄-CoAl₂O₄

英文名

CHROME TIN PINK SPHENE(CPMA)& CADMIUM
SULFOSELENIDE INCLUSION PIGMENT ZIRCON & COBALT
ALUMINA BLUE SPINEL(CPMA)

C.I.GN

Pigment Lilac

C.I.No.

該当なし

CAS No.

68187-12-2* & 102184-95-2 & 1345-16-0

4. 応急措置

皮膚についた場合：水および石鹼で洗い流す。

眼に入った場合：無機物の存在により物理的に眼球が損傷される恐れがあるので、流水で5分以上洗った後、医師の手当を受ける。

吸入した場合：製品自体は吸入される形態にないが、臭気物に起因する場合は、空気の新鮮な場所に移し、保温して安静にする。呼吸に関する症状がでた場合には、医師の診断、手当をうけること。

飲み込んだ場合：無理に吐かせず、直ちに医師の診断、手当を受けること。

5. 火災時の措置

消火方法：製品自体は不燃性である。

消火剤：水、二酸化炭素、泡、粉末

使用してはいけない消火剤：データなし

6. 漏出時の措置

床面などに付着した場合にはウエスなどで拭き取り、水を含んだウエスなど綺麗に洗いとる。環境中に放出してはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：眼や体内に入らないように注意する。皮膚に触れないように作業する。取扱い後は速やかに手洗いを行う。

保管：火気に関する注意事項はない。容器を密栓して冷暗所で保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

暴露防止：必要に応じて、局所排気/全体排気装置を設ける。

保護措置：必要に応じて、保護具マスク、保護メガネ、保護手袋を着用する。

取扱い上の注意事項（混合・接触など）：特になし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：無機物が分散した粘調な水溶液

色：紫

臭気：わずかな固有臭

pH：概ね中性

引火点・発火点：データなし

融点：データなし

密度：1.7g / cm³

溶解性：水に可溶な界面活性剤にて無機物を分散させた懸濁水溶液

10. 安定性及び反応性

可燃性：不燃性

反応性：通常のアツかいにおいて反応しない

安定性：通常のアツかいにおいて安定

避けるべき条件：混触危険物との接触

混触危険物質：酸化剤

危険有害な分解生成物：通常の使用・保管条件下では、有害な分解生成物は生成されない

11. 有害性情報

製品の有害性情報：製品としての有害性データはない

急性毒性（経口）：データがなく、『区分に該当しない』とした。

急性毒性（経皮）：データがなく、『区分に該当しない』とした。

急性毒性（吸入）：データがなく、『区分に該当しない』とした。

生殖細胞異変原性：区分 2

In vivo では、気管内注入によるラット肺胞上皮細胞を用いた *hprt* 遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織の *hrpt* 遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化 DNA 障害試験で陽性又は陰性、ラット肺上皮細胞の DNA 切断試験で陽性である (SIDS(2013)、CICAD 24(2000)、DFGOT vol.14(2000)、IARC 68(1997))。In vitro では、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性、陰性の結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、陰性の結果、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2013)、CICAD 24(2000)、DFGOD vol. 14 (2000)、IARC 68(1997))。以上より、ガイダンスに従い、区分 2 とした。なお、本物資の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS(2013)、IARC 100C(2012))。『該当しない』とした。

発がん性：区分 1A

多くの疫学研究結果において、本物質（石英）を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS(2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉塵の吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C(2012))。一方、実験動物では雌雄ラットに本物質（空気力学的中央粒子径 (MMAD) :1.3 μ m) を 1mg/m³ で 2 年間吸入ばく露した試験、また雌らつとに本物質 (MMAD:2.24 μ m) を 12mg/m³ で 83 週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍 *m p* 有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌らつとに本物質 (MMAD:1.8 μ m) を 6.1、30.6mg/m³ で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた (IARC 100C(2012))。以上、ヒト及び実験動物での

発がん性情報により、IARC は本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない (IARC 68(1997)、IARC 100C(2012))。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会「第 1 群」に (産衛学会勧告(2015))、ACGIH が 2004 年以降「A2」に (ACGIH(7th, 2006))。ONTP が結晶質シリカ（吸入性粒子径）に対して、「K」に分類している (NTP RoC(13th, 2014))。

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：区分 1

シリカ：ヒトにおいて、多くの疫学研究において、本物質の職業ばく露と呼吸器への影響（珪肺症、肺がん、肺結核）が確認されている。このほか、自己免疫疾患（強皮症、関節リウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合織炎）、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられる (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT Vol. 14(2000))。

この腎臓の疾患は自己免疫が関連していると考えられている (SIDS (2013))。

実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている (SIDS (2013))。従って、区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）とした。

その他の有害性情報

データがなく、『区分に該当しない』とした。

粉塵を多量に吸入すると健康を損なう恐れがある。また、長期間吸入した場合、じん肺になることがある。

1 2. 環境影響情報

水性環境有害性 短期（急性）

データがなく、『区分に該当しない』とした。

水性環境有害性 長期（慢性）

データがなく、『区分に該当しない』とした。

1 3. 廃棄上の注意

容器は筆などで中の内容物を綺麗に拭い取り、プラスチックごみとして廃棄する。微量の絵具は新聞紙などで綺麗に拭い取り、一般の家庭用ゴミに準じて廃棄する。多量の絵具を処理する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、産業廃棄物として処理する。内容量や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国連分類・番号 : 危険物に該当しない

容器が破損しないように、乱暴な取扱いを避ける。

1 5. 適用法令

水質汚濁防止法

化学物質排出把握管理推進法（PRTR）

第一種指定化学物質 156 号 コバルト及びコバルト化合物

272 号 セレン及びその化合物

特定第一種指定化学物質 99 号 カドミウム及びその化合物

労働安全衛生法 : 第 57 条に定める名称等を通知すべき危険物及び有害物

別表第 9 の 9 号 カドミウム及びその化合物

別表第 9 の 11 号 クロム及びその化合物

別表第 9 の 12 号 コバルト及びその化合物

別表第 9 の 13 号 ジルコニウム化合物

別表第 9 の 15 号 すず及びその化合物

別表第 9 の 16 号 セレン及びその化合物

別表第 2 の 578 号 結晶質シリカ

別表第 2 の 620 号 酸化カルシウム

労働安全衛生法 : 第 57 条に定める名称等を表示すべき物質

別表第 9 の 9 号 カドミウム及びその化合物

別表第 9 の 11 号 クロム及びその化合物

別表第 9 の 12 号 コバルト及びその化合物

別表第 9 の 13 号 ジルコニウム化合物

別表第 9 の 15 号 すず及びその化合物

別表第 9 の 16 号 セレン及びその化合物

別表第 2 の 578 号 結晶質シリカ

別表第 2 の 620 号 酸化カルシウム

特化則：特定化学物質第2類物質、管理第2類物質 別表第一

10号 カドミウム及びその無機化合物

特化則：特定化学物質第2類物質、管理第2類物質 別表第三

2号10 セレン及びその化合物

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

その他法令 : 該当しない

16. その他の情報

17. その他の情報

参考文献

1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS) (JIS Z7253:2019)

2) GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252:2019)

免責条項

本安全データシートは、製品を安全にご使用頂く為に必要な注意事項をまとめたものです。通常的な取り扱いを対象としていますので、内容をよくご理解して頂いた上で使用者の責任に基づきご使用下さい。

本安全データシートの記載内容は情報提供であって、いかなる保証を与えるものではなく、完全さを保証するものではありません。

記載内容は法令の改定や新しい知見によって変わる事があります。

製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外のため、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負いません。